

麻しん（はしか）が増えています！！

全国では2020年以降最多となるペースで感染拡大、山梨県内でも感染報告があります。

麻しんを疑う症状（風邪様症状・口腔内の白い斑点・全身の発疹等）がある場合は外出を控え、受診時には事前に医療機関へ連絡し、公共交通機関利用を避けて受診しましょう。

感染が分かったら **学校感染症フォーム** に入力しましょう。

有効な予防方法

空気感染するため、マスク着用・咳エチケット・手洗いだけでは防ぎきれません。

最も有効な予防方法は、予防接種です。

接種歴を確認し、2回の予防接種の検討をお願いします。

2回の予防接種



麻しん（はしか）とは

出席停止期間：解熱した後3日を経過するまで

症状：感染約10日後に発熱・咳・鼻水などの風邪症状や結膜充血・目やに等があります。2～3日熱が続き口腔内に白い斑点（コプリック斑）が出現し、その後39度以上の高熱と発疹があります。発疹は耳の後ろから顔面にかけて出始め身体全体に広がり、褐色の色素沈着が残るのが特徴です。「かかってもたいしたことはない」感染症ではなく、肺炎・脳炎・腸炎等で重症化することが多く、1,000人に1人死亡するとされています。

感染経路：空気感染によりヒトからヒトへの感染力は非常に強いです。発症日の1日前から解熱後3日間まで感染力があります。

注意! 感染力が極めて高い

麻疹(はしか)

感染拡大しています



症状

感染約10日後に発熱や咳などの風邪症状が現れ、2~3日熱が続いた後、**39度以上の高熱と発しん**が出現します。

感染経路

空気感染等によりヒトからヒトへの**感染力は非常に強い**です。発症日の1日前から解熱後3日間まで感染力があります。



皆様へのお願い

- ・麻疹を疑う**症状がある場合**、外出を控え、受診する際には**事前に医療機関に電話**し、なるべく**公共交通機関の利用を避けて**ください。
- ・麻疹の感染拡大防止のため、接触者等への**行政による調査**にご協力ください。
- ・お子様が**1歳または就学前1年間**にある場合、積極的に**早期の接種**をご検討ください。
- ・定期接種の**接種歴を確認**いただき、**2回のワクチン接種の検討***をお願いします。
※今回の流行の中心である10~40代の方は特にご検討ください。
- ・妊娠中に感染すると**早産や流産**のリスクがあるため、**妊娠前の接種**を検討ください。
- ・**免疫不全のある方**は、主治医の方と相談の上、**接種**を検討ください。
- ・**乳幼児**は、肺炎や脳炎を起こすリスクがあるため、**家族の接種歴を確認**ください。

詳しくは、厚生労働省WEBページをご覧ください

 **厚生労働省**

感染症対策課 2026年4月 作成



こどもも
大人も

麻しんを疑った際の対応

- 発熱 + 発疹 + カタル症状(咳・鼻汁・結膜充血) ○ 口腔内のコプリック斑
- 海外渡航歴 または麻しん患者発生地域への移動歴、接触歴
- ワクチン2回未完了 または 不明

全身性発疹+発熱+カタル症状(咳・鼻汁・結膜炎)±流行地滞在

成人例でも重篤になる可能性があります

典型的皮疹
紅色斑丘疹
融合傾向を示す



コプリック斑
頬粘膜に好発



修飾麻しんでは、典型所見に乏しいことがあるので注意!

(修飾麻しんとは、麻しんに対する免疫が不十分な人に生じる、軽症で非典型的な麻しんである)

1 感染対策

- 個室管理対応、患者にマスク着用を促し、扉を閉める(可能なら陰圧室)
- 空気感染対策(原則、N95マスク)+標準予防策を行う
- 対応する医療者と接触者を最小化する



2 臨床対応

- ワクチン接種歴聴取、臨床評価、脱水や呼吸管理等
- 合併症: 中耳炎、肺炎、下痢等による脱水、脳炎

※ 麻しん患者との接触後、72時間以内に麻しん含有ワクチンを接種すること等によって、麻しんの発症を予防できる可能性がある。

3 連絡・届け出

- 院内ICTへ即時連絡 ○ 麻しんと臨床診断したら直ちに発生届提出
- できるだけ早期(発疹出現後1週間以内)に、保健所の指示に基づく検体(咽頭ぬぐい液・尿・EDTA血)を採取し、提出する
- 提出方法は、自治体毎に異なるため、管轄の保健所に問い合わせる

※ 必要に応じてIgM抗体検査も実施するが、発疹出現後3日以内は偽陰性に注意する。



写真: 学校における麻しん対策ガイドラインより
参考資料: 医療機関での麻疹対応ガイドライン/第七版
作成: 国立健康危機管理研究機構 国立国際医療センター
国際感染症センター(2026年3月)



麻疹対策・
ガイドライン
など



最新の
国内発生
状況